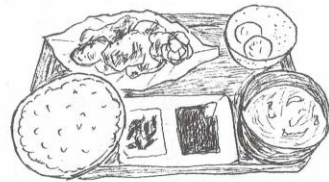


行ってみた！
**玉川大学の近くで
 突撃取材！**
 やってみた！

『牛たん 長谷川』



牛たん定食は塩焼き、みそ焼き各1500円。
 牛たんカレーうどんはサラダつきで1000円

玉川学園1-22-16 ☎042-850-9550
 休み/月 営業/11時半-15時 18時-22時

十数人でい
 っぱいになる
 小さなお店で
 すが、レトロ
 な店構えが気
 になっていま
 した。ご主人
 の長谷川米男
 さんは、中華
 の巨匠、陳健民の四川料理店で修業、その後、
 出身地の新潟や横浜のホテル内の中華料理店

で働き、さらに六本木の高級牛たん店で10年働いたあと、5年前に玉川学園に店を開きました。六本木では店に泊まり込むほどの忙しさだったので、自宅近くに自分の店を出したいと考えたそうです。アース製菓やナシヨナルの古い看板は「懐かしさを感じるように」と知り合いの大手さんと選びました。

最初は夜のみ3000円と5000円のコースで、牛たん焼き、蒸し、牛たんのお茶漬け、牛たんの刺身などを提供していましたが、まちの雰囲気や近所の人からのアドバイスでランチを始め、低単価で提供できる牛たんのしぐれ煮入りカレーうどんも始めました。

牛たんは富士山の溶岩を使って焼いていて、遠赤外線効果で肉が柔らかく、おいしくなるそうです。塩の付け方は独特で、木の木目を

こじんまりした店にしたのは「お客さんの表情を見ながら牛たんを焼きたい。お客さんが帰るときに『ごちそうさま』と心から思えるようなお店にしたい」という思いから。ただ、コロナ禍で牛たんの仕入れ値が高騰していることが悩みだそう。夜の来店が減り、お酒の提供ができなくなったのもつらいそう。

でも「この場所で長くやっていきたい」とのこと。玉川大学の学生について「礼儀正しい印象がある」と聞いてうれしくなりました。

サービスで牛たんの厚切りとしぐれ煮までいただき、プライベートでもお店に行きたいと思いました。



気になる
 モノ MONO スポット
 KOTO コト
 SPOT



ベンチに生まれ変わった
 ケヤキの木

玉川学園の桜

玉川学園の春を彩る桜。枯れかけている姿を毎年見ていて心配になりました。桜を管理している「玉川学園地区まちづくり会」の木村彰男さんに話を聞きました。

桜の枯れは昭和60年ごろから問題になっていました。少しでも長生きできるように、玉川大学の先生とも連携してきました。駅前ソメイヨシノは60%が衰退しています。まちの桜は道路整備前に植えられた桜がほとんどで、道路も住宅も関係なく植えられています。ただ新しく植え替える予定は今の

ところはありませぬ。市に掛け合っているのですが、自費で、と言われてしまします。伐採する資金と新しく植える資金が必要で、我々では到底払える額ではありません。提案を形にするためには、発言力や権限、資金力が必要だと考え、「まちづくりの会」は6月からNPO法人になりました。

この会は継続しやすいように、あえてその場限りの集まりとし、ゆるやかな多様性を持たせました。今後は提案を形にできる団体にしていきたいです。桜は品種改良などで大きくならない桜、育てやすい桜もあるそうで、そのような桜を植えていきたいです。景観も意識していかねければなりません。また、これから伐採する桜などは、単に捨てるのではなく何か形にして残したいです。2017年に伐採された駅前のケヤキも、コミュニティセンターでベンチに加工されています。桜はやわらかい木なので彫刻や置物になったらしいですね。

空き家を活用
 「まちの縁側
 一丁目の加賀美さんち」



気になる
 モノ MONO スポット
 KOTO コト
 SPOT

利用時間は9-21時で利用料金は3部制4時間1500円、それを超えると2500円。問い合わせは090-1611-2911 木村真理子さん。玉川学園地区まちづくりの会の活動はfacebookから見るができます

玉川学園の空き家を活用する新たな計画が動き出しました。「まちの縁側 一丁目の加賀美さんち」(玉川学園1丁目)の利用がこの夏から始まり、「まちづくりの会」の有志によって空き家を活用した交流の場になりつつあります。地域資源活性化プロジェクトの一環です。「加賀美さんち」は築約50年。昭和感あふれる外観です。室内はこの夏、まちのボランティアの手で掃除やペンキ塗りが行われ、すっかりきれいになりました。また、玉川大学からも不要になった机や椅子が寄付されました。すでに、高齢者介護支援施設「桜実会」で月曜と火曜の利用が決まっているほか、地域の交流会やカフェ、ミニコンサートや上映会、ワークショップなどが計画されているそうです。

玉川学園はSDGsなまち

オンライン開催となった玉川大学の2021年「コスモス祭」の共通コンセプトはSDGs。「本棚」での貸し借り、桜の再生、空き家の活用——お読みいただければ玉川学園もSDGsなまちだとわかります。空き家を拠点に学生がまちを元気にする活動もやってみたい。(玉川大学教育学部教授 中西茂)

2021～ゼミ生の声

- ◎「きんじょの本棚」をまわって「近所のために何かしよう」「近所の人に喜んでもらいたい」という地域の方の温かさが身に染みました。(長倉)
- ◎普段歩くのは駅から大学までの道だけですが、空き家の活用取材を通して、玉川学園の地域性を感じることができました。機会があれば多くの学生にまちを探索してもらいたいです。(土井)
- ◎「きんじょの本棚」など、今まで知らなかったことを知ることができて、地域に興味が増えました。これからはまちを歩き、近くのお店にも入ってみようかなと思っています。(平山)
- ◎幼い頃から通ってきたまちの、年々枯れていく桜が気になっています。変わりつつある玉川学園をこれからも見守っていきたいです。地域の方から話が聞けてよかったです。(岡本)
- ◎ゼミ活動の一環で始まった玉川つばめ通信の制作でしたが、いつのまにか自分ごととして玉川学園の魅力について考えていました。どのようにしたらまちの魅力が伝わるかを考えて制作でき、貴重な経験でした。(後藤)
- ◎活動を通してまちの歴史や取り組みを知りました。取材を受けてくださった方々、町歩きの途中、親切に道を教えてくださった方々、本当にありがとうございました。(濱)
- ◎まちについて知らないことがたくさんありました。取材をしたお店だけでなくゼミの仲間と訪れたお店など、玉川学園にはたくさんの魅力が詰まっていると感じました。(伊藤)